

不登校経験者への高等学校における支援について —高校入学時の気持ちに着目して—

○松下ひとみ (奈良女子大学)

伊藤美奈子 (奈良女子大学)

キーワード：不登校経験，通信制高校，登校支援

問題と目的

高等学校における不登校生徒数は，中学校と比較すると人数・割合ともに少ない（文部科学省，2018）。不登校経験者の高校進学率が低い可能性を考慮しても，高校入学後は学校生活に適応できる生徒がいることを示唆している。高校入学で過去のしがらみが消えるという心機一転効果が学校に通える理由のひとつとなる（伊藤，2008）と考えられる。一方で，高等学校では不登校生徒の 27.3% が中途退学（文部科学省，2018）しており，高校生活に適応できず不登校状態を経て中途退学に至る生徒も存在する。文部科学省（2018）によると，2017 年度の中途退学者は 46,802 人であり，退学理由は「学校生活・学業不適応」が 34.9%，「進路変更」が 34.7% であった。

これらの生徒に対して適切な支援を行うことは，中途退学者を減らし，彼らの高校生活を将来の社会的自立のための有意義な経験とする可能性がある。そこで本研究では，高校生活に適応できる生徒と適応できない生徒の違いを明らかにし，特に不登校経験などの困難を抱える生徒にとって，高等学校においてどのような支援が有効か，その可能性を探ることを目的とした。

方 法

調査時期：201X 年度 4－5 月（1 学期の始業時），7 月（1 学期の終業時）の 2 回

調査対象：広域通信制 A 高等学校の全日制コース（週 5 日通学）に在籍する 1 年生 250 名（男子 153 名，女子 96 名，不明 1 名）。このうち不登校経験のあるものは 167 名で，対象者の 66.8% であった。

調査内容：以下の項目からなる質問紙調査

（1 回目）不登校経験の有無，入学理由（提示した 11 の選択肢から 1 つを選択），高校生活に対する楽しさ度と不安度（「大変楽しさ」から「まったく楽しさでない」，「大変不安」から「まったく不安でない」の各 4 段階。それぞれ 4 点から 1 点として得点化）

（2 回目）高校生活の満足度（「大変満足」から「まったく満足でない」の 4 段階。「大変満足」「やや満足」を「満足群」，「あまり満足でない」「まったく満足でない」を「不満足群」とした）

ほかに高等学校における支援への期待や評価も尋ねたが，本研究では分析対象としない。

結果と考察

高校生活の満足度は，満足群が全体の 83.9% となった。不登校経験の有無による差はみられなかった（ $\chi^2=3.07$ ， $df=3$ ， $p=.382$ ）。

高校生活への楽しさ度と不安度を従属変数とし，満足度と不登校経験の有無を独立変数とした 2 要因分散分析を行なった（Table1）。その結果，楽しさ度では満足度による主効果が有意であり（ $F(1, 225)=12.24$ ， $p<.01$ ），満足群が不満足群より 0.48 ポイント高かった。また，不安度では不登校経験有無の主効果に有意傾向がみられ（ $F(1, 226)=3.04$ ， $p<.10$ ），不登校経験群の得点が不登校未経験群より 0.28 ポイント高かった。楽しさ度・不安度のいずれも交互作用はみられなかった（ $F(1, 225)=0.71$ ， $p=.790$ ； $F(1, 226)=0.38$ ， $p=.538$ ）。

Table1 楽しさ度と不安度得点の平均（SD）と分散分析結果

不登校経験	不登校経験群		不登校未経験群		主効果		交互作用
	満足度	不満足度	満足度	不満足度	不登校経験	満足度	
楽しさ度	3.32 (0.67)	2.81 (0.90)	3.44 (0.63)	3.00 (0.78)	1.33	12.24 **	0.71
不安度	2.81 (0.79)	2.85 (0.93)	2.44 (0.82)	2.67 (1.07)	3.04 †	0.66	0.38

† $p<.10$ ** $p<.01$

また，入学理由の選択肢を，その内容から積極的理由（「もっと勉強したかったから」など）と消極的理由（「親が学校の先生がすすめたから」など）に操作的に分類し，不登校経験有無と満足度によって差があるかどうか χ^2 検定を行なった。満足度による差に有意な傾向がみられ（ $\chi^2=3.82$ ， $df=1$ ， $p<.1$ ），満足群の方が積極的理由を選択する割合が多かった。不登校経験による差はみられなかった（ $\chi^2=0.60$ ， $df=1$ ， $p=.449$ ）。

以上のことより，下記の結果を得た。不登校を経験した生徒は，不登校を経験していない生徒と比較すると，高校生活の満足度に差はみられなかったが，入学時の不安度が高かった。しかし，入学前あるいは入学直後に，高校生活を楽しさに感じる気持ちを高める支援を行なうことが，不登校経験の有無に関わらず満足度の向上につながる可能性が示唆された。また，高校入学時点で高校生活を楽しみに感じておらず，積極的な意義を見出していない生徒は，その後の高校生活に対して不満を抱きやすい可能性が示唆された。